U君、どうしたん？

午後 5 時過ぎ、そのお母さんから電話を頂いた。「Uが、また学校を休みがちなんです。どうしましょう？」「いや、私も、彼の友達から伝え聞く、U君の様子でちょっと気になることがあるんです。ただ明日、あさっては朝から授業と用事がありまして時間が取れませんので、夜遅くなりますが、今夜 10 時、私の運営する東進衛星予備校でいいですか？」「いいです、お伺い致します。」ところが、10 時直前に高校 3 年生の受験相談が入り、15 分ばかり待って頂いた。

当時、学校を休みがちだった彼のお母さんが学校に相談に行ったところ、その中学校の別の不登校の生徒の対応をしておりました私をご紹介頂き、彼と初めて面談したのが 1 年半程前。約半年の対応で授業復帰した。しかし、2 ヶ月ほど前から学校から帰って来るなりそのまま自分の部屋に入ったまま眠り込んでしまうことが多くなり、この頃は再び学校も休みがちになったと言う。

お母さんには席を外して頂き、彼と二人きりでお話をさせて頂いた。大きくなった体格とは正反対に気が小さく、弱そうな様子で、勉強にすっかり自信を失っており、話すのもポツリポツリだった。1 時間余対応し、彼を帰した。

暫くしてお母さんから電話があった。面談するのも嫌がった彼が、「面談の帰りの車の中では信じられないほど明るくなり、『俺、もう一度あの先生ところに行く。』と言ったんです。どのような話をなさったんですか？」と母親。別に特別なことをしたわけでもありません。その時はただ自信を付けさせるために、数学の教科書を使って、まず教科書をじっくり読ませ、例、例題の解き方をきちんと理解させ、その解き方でそのあとの問いを解かせたんですね。そうして彼のペースに合わせれば、解けるんですね。勿論、ここが分からないと言えば、分かるまで説明をしたんですが、そうしたら解けたんで、ここだけの話、べた誉めしたんですね。「ほら、解けるんじゃない、いいねえ。その調子で次をやってごらん。」「そうそう、それでいいんだよ。できるんじゃない。」

勿論、その後は彼は学校も休むことなく、部活に”燃えて”いた。当スクールの他の学校の生徒とも仲良くなり、この頃は授業の合間には結構楽しくじゃべっている。